



## こんな時どうする？ 補聴器の対処法



### 補聴器が水で濡れてしまった。

- ①すぐに拭きましょう。その時に、濡れた状態で電池ボックスを開けないようにしてください。(中に水分が入り込むと、故障につながります。)
- ②ドライヤーをあてて乾かしてください。補聴機器は熱に弱いので、必ず冷風であててください。
- ③最後に、電池ボックスを開けた状態で乾燥ケースに入れてください。



### ハウリングが止まらない。

補聴器の音がもれ、「ピーピー」と音が鳴っていることを「ハウリング」と言います。ハウリングが起こる原因で1番多いのが、イヤモールドと耳の間に隙間ができています。隙間がなくなるように、イヤモールドを押ししたり、はめ直したりしてみてください。

また、耳垢が原因になることもあります。耳垢が耳道を塞ぐことで耳の中で音が反響し、ハウリングにつながる場合があります。耳垢がたまらないように、定期的に耳掃除をしてくださいね。

それでもハウリングする場合、イヤモールドが耳の形に合っていないこともあります。特に、成長過程の子どもの場合、成長とともに耳の大きさが変わりますので、定期的にイヤモールドの作成をおすすめしています。



### 電池を新しくしたのに、補聴器から音が出ない。

補聴器で使われている空気電池は、空気中の酸素を取り込んで発電します。

電池のシールをはずしてすぐはまだ発電していない場合がありますので、少し時間をおいてから入れ直すといいですよ。特に、冬になると寒さで発電しにくくなる場合がありますので手のひらで温めると発電しやすくなります。

1度シールをはがすと、発電し続けていますので

数週間後に再度使おうとしても電池切れになっている可能性もあります。

使わない時は、乾燥ケースのフタ(磁石部分)に貼り付け、空気の穴をふさいでおくと電池が長持ちしますよ。



電池の表面に  
空気を取り込む  
穴が開いています。

+ 13

### 補聴器の中が錆びている。

最近の補聴器は、防水性が高くなっていますが、精密機器ですので、毎日のお手入れがとても大切です。夜は、補聴器をケースに入れて、乾燥させましょう。

また、電池ボックスを閉めた状態の時は防ぐことができていた水分も、汗ばんだ手で電池を交換すると、電池についた汗が補聴器の中に入り込み、そのまま錆につながる場合があります。補聴器に錆があると、故障につながりますので、錆に気付かれた場合は、すぐに補聴器屋さんご連絡してくださいね。

### 補聴器を紛失してしまった。

補聴器の補助がおけるのは、5年に1度です。

それ以外での購入は、基本的に、全額実費での補聴器再購入になります。障害者総合支援法や様々な助成が適応にならない可能性がありますので、非常に高額となります。

紛失を防ぐために、補聴器をはずす時は、必ず補聴器ケースにいれましょう。紛失につながりますので、補聴器をポケットにいれないでください。



## 気付きにくい音のマナー

文責：針本・畑中

生活していく中で、自分も周りも心地よく過ごしていくためには、マナーが大切になります。食事のマナー、電車やバスの乗車マナーなどありますが、今回は「音のマナー」について小学部で学習している内容をお話します。

身の周りには、たくさんの音があり、自分はそんなつもりがなくても、周りを驚かせてしまったり、迷惑をかけてしまったりすることがあります。物の置き方、声の大きさ、歩き方、補聴器のハウリングなどの音のマナーについては、日常的に言葉かけするようにしています。どんな音が聞こえているのか、聞いた人がどんな気持ちになるのかも伝えます。そうすることによって自分では、なかなか気付きにくい音があることを子どもたちが知り、意識していけるようにしています。

### 自立活動で学習する様子

低学年では、好きな音や嫌いな音、大きな音や小さな音について学びます。どんな音があるのか友達と知っている音を思い浮かべながら、生活の中でさまざまな音があることに気付かせるようにします。また、声のものをさしを使って自分の声の大きさを意識したり、適切な声の大きさを考えたりします。自分が出している声がどのくらいの大きさなのかが分からず、無意識に大きい声を出してしまう様子が見られます。

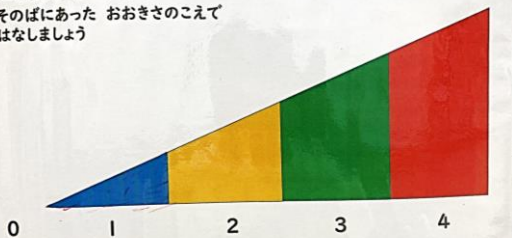
「大きな音ってどんな音？」

- ・車の音
- ・たいこの音
- ・工事の音
- ・いすが倒れる音



こえのものさし

そのばにあった おおきさのこえで  
はなしましょう



高学年では、不快な音や自分が生活の中で音のマナーに気がついている場面を発表し合ったり、さまざまな音を言葉で表現してみたりします。何が不快か、そうでないかは人によって感じ方が違うことに気付く、他の人を不快にさせるということも学びます。また、音の大きさを表す単位であるdBを知り、騒音計で音の大きさを測りながら、良い行動について考えることもあります。

「どんな音？」

- ・ダン
- ・ドンドン
- ・ゴトン
- ・バン



騒音計で測ってみよう。

## コラム

### 「大きな声」は聞きにくい！

聞こえにくいお子さんと話をするときに「小さな声は聞こえない」ということはイメージしやすいですね。そのため「大きな声で伝えよう」と思って話したのに「大きすぎる声はわかりにくい」と言われることがあります。なぜでしょうか？

例えば「サ」は、子音の「s」と母音の「a」で「sa」という音になります。この「sa」を試しに大きな声で言ってみてください。息がこすれるような「s」の音は、いくら大きく言おうとしてもそれほど大きな音にはなりません。大きくなっていくのは「a」の母音部分です。

大きな声で「サカナ」と伝えているつもりでも、子どもたちの耳に届く音は「s a k a n a」つまり「アアナ」と聞こえるということが起こります。



放送室!!

と、大きな声で伝えているつもりでも…

実際には、子音の音はあまり大きくならないので

h O U s O U shi tsU

と、母音ばかりが大きくなって伝わってしまうと…

おうおう…??

聞き取りづら  
くなってしまいます

- ★ 小さすぎず、大きすぎず、適度な音量で話す
  - ★ 「2階の放送室」の用に少し情報を付け加える
  - ★ 指さしを入れたり、文字を見せたり、視覚的な情報を付け加える
- これらのことに気がつけていただくと、少し聞きやすくなります。

文責：山本